

デ活

データ活用協議会
Data use and application council for resilience
シンポジウム2019

for R 首都圏
レジリエンス
プロジェクト
Tokyo Metropolitan Resilience Project

本プロジェクトは、地域のレジリエンス力向上のための研究活動を実施するとともに、産官学民の有機的連携を通じて、組織・団体が有する地震センサー等のデータの共有を行い、ビッグデータを活用した社会の防災力向上を目指しています。また、防災分野における企業・組織の課題解決、事業継続能力の向上に資することを目的とし、「データ活用協議会」を立ち上げ、運営しています。

令和元年度 第3回デ活シンポジウム **事前申込制**

企業も強くなる 首都圏も強くなる

Companies become stronger,
metropolitan areas also become stronger
-Learn the fear of typhoon disasters that hit the metropolitan area-

～首都圏を襲う台風災害の怖さを改めて学ぶ～

本シンポジウムでは、日本を立て続けに襲った台風等を、全国に広く長期的な影響を及ぼした同時多発広域災害ととらえ、今回防災科研が中心となって行った災害対応や活動を紹介し、今後首都圏・日本のレジリエンス強化に向けて取り組むべき課題について、データ活用協議会の活動を軸に議論いたします。

第1部:緊急報告-首都圏を襲う台風災害の怖さを改めて学ぶ-

第2部:分科会の取り組み紹介「生活再建分科会」「インフラ分科会」

第3部:パネルディスカッション

2019.12.16 月 14:00-17:00
(13:30開場)
都道府県会館 1F 101大会議室 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
<https://www.tkai.jp/>

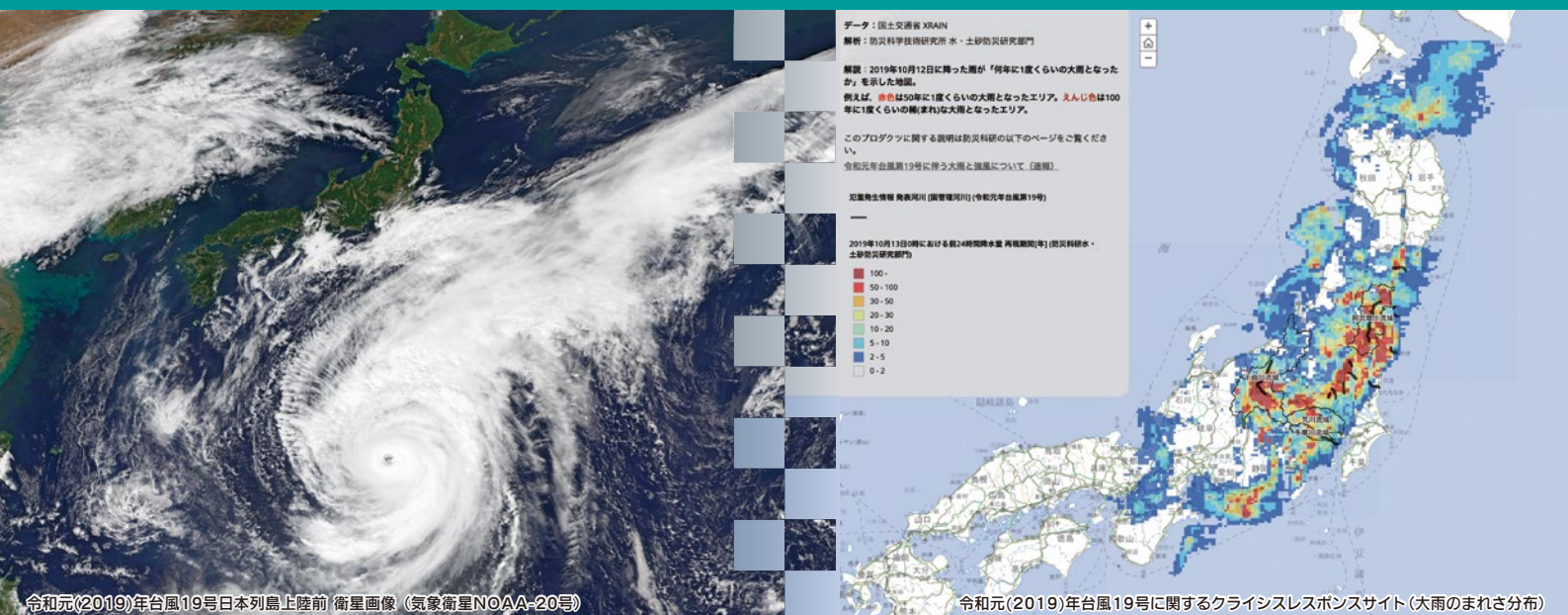
※なお、去年までの会場とは変更になっております。最寄駅:東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」(5番出口より地下連絡通路を経て徒歩約1分)

申込方法



このシンポジウムへ参加希望の方は、下記URLの申込フォームより必要事項を記入の上、参加登録をお願い致します。なお、定員に達した時点で締め切らせていただきます。

<https://nied-forrdudc-regist.smartcore.jp>



プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 あいさつ 文部科学省
平田 直 (防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト 総括)

第1部 緊急報告 - 首都圏を襲う台風災害の怖さを改めて学ぶ -

- 14:10 「令和元年に発生した災害における防災科研の対応と今後の取り組み」
林 春男 (防災科研 理事長)
- 「身近なリスクを可視化する」
三隅 良平 (防災科研 水・土砂防災研究部門 部門長)
- 「リモートセンシングデータを災害対応に活かす」
酒井 直樹 (防災科研 水・土砂防災研究部門 主任研究員 / 国家レジリエンス研究推進センター 研究統括)
- 「SIP4Dを使った情報共有を充実させる」
取出 新吾 (防災科研 首都圏レジリエンス研究センター センター長補佐)

第2部 分科会の取り組み紹介 データ活用協議会では、首都圏レジリエンス向上のために、テーマ別の課題に基づいた分科会を設定し、活動を実施しています。

- 15:20 生活再建分科会
「早期生活再建の入り口となる住家一括認定(仮)」
田村 圭子 (防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト サブプロ a 統括 / 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授)
- 15:40 インフラ分科会
「首都圏版CRS※構築に向けたデ活の役割(仮)」※クライシスレスポンスサイト
能島 暢呂 (防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト サブプロ a 分担研究者 / インフラ分科会会長 / 岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授)

- 16:00 休憩

第3部 パネルディスカッション

- 16:10 「企業も強くなる 首都圏も強くなる ～首都圏を襲う台風災害の怖さを改めて学ぶ～」
モデレーター：下村 健一 (令和メディア研究所主宰 / 白鷗大学 特任教授 / 元 TBS キャスター)
パネリスト：平田 直、林 春男、田村 圭子、能島 暢呂
- 16:55 あいさつ

※このシンポジウムは、防災科研 首都圏レジリエンス研究センターと気象災害軽減イノベーションセンターが共同で開催いたします。



首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト/データ活用協議会(デ活)

首都圏レジリエンス研究センターは、以下に掲げる3つのサブプロジェクトの推進、データ活用協議会(デ活)の運営を行ない、これらの有機的連携を通じて、官民一体の総合的な事業継続や災害対応、個人の防災行動等に資するデータの収集・整備をめざします。



首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上に資するデータ活用に向けた連携体制の構築

サブプロ[a]では、(1)被害の拡大を阻止し、都市機能の早期復旧・復興を実現する技術的課題抽出、データ活用策の検討をするとともに、(2)データ活用に向けた民間企業や関係機関等との連携を模索する(社会科学を中心とした防災研究)。

16の研究機関・大学(22名)と6つの企業・団体(6名)が研究開発を実施。

統括：田村 圭子 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授
上石 勲 防災科研 首都圏レジリエンス研究センター 副センター長



官民連携による超高密度地震動観測データの収集・整備

サブプロ[b]では、(1)官民連携超高密度観測データの収集・整備と、(2)マルチデータインテグレーションシステムの検討を行う(理学を中心とした防災研究)。3つの研究機関・大学(27名)と1つの企業・団体(1名)が研究開発を実施。

統括：酒井 慎一 東京大学 地震研究所 観測開発基盤センター 准教授
青井 真 防災科研 地震津波火山ネットワークセンター長・総括主任研究員



非構造部材を含む構造物の崩壊余裕度に関するデータ収集・整備

サブプロ[c]では、(1)非構造部材を含む崩壊余裕度に関するデータ収集・整備、(2)地盤-建物系のセンシングデータの収集・整備を行う(工学を中心とした防災研究)。13の研究機関・大学(27名)と2つの企業・団体(3名)が研究開発を実施。

統括：西谷 章 早稲田大学 理工学術院 建築学専攻/建築学科 教授
梶原 浩一 防災科研 地震減災実験研究部門(兵庫耐震工学研究センター) 部門長・総括主任研究員

お問い合わせ

防災科研 首都圏レジリエンス研究センター 研究戦略室
古屋・三條・小野 Tel : 029-863-7260 E-mail : info_for_r@bosai.go.jp

データ活用協議会ホームページ
<https://forr.cc.niigata-u.ac.jp/duc/>